



●プロフィール
山野井 昇先生
生体物理医学者。1947年生。東京大学大学院医学系研究科助手を経て現在、一般財団法人未来医学財団理事長。40数年にわたり医療や健康、美容などの最先端研究に従事。著書に「生命の陰陽学」(IDP出版)「水素と電子の生命」(現代書林)「ケイ素の力」(秀和システム)「生き方の処方箋〜日野原重明/山野井昇他対談集」(河出書房新社)など20数冊。新技術未来戦略会議議長、日本マイナスイオン応用学会会長、一般社団法人未病システム学会名誉会員など多くの役職を兼務する。

第8回

水素と仲良し元素とミネラル

生命の誕生には母体

となる温かな海が必要で

地球誕生と水素のドラマを回顧すると、面白いことに水素はもともと化学的に鉄Feが大好きなようである。圧力をかけるとどんどん鉄の中に入って行く。たぶん地球が生成されるとき、宇宙から地球にやって来た大量の水塊(水)の中の水素が、地球中核の鉄に溶け込んでコアを形成し、少しだけ残った水が地表の海水になったのだろう。つまり海洋の形成である。

一方、地球はケイ素Siを多く取り込んだ。地殻は主として酸素、ケイ素、アルミニウム、鉄の元素でできているが、元素存在度は、酸素Oに次いで2番目にケイ素Siが多い。いわば水素は海洋に、ケイ素は地球の地殻に配属されたとも言える。ケイ素は沼の泥中や鉱石類に多く、とくに石英すなわち水晶では高い

濃度を占める。水素はケイ素とも仲良しで温泉にもメタケイ酸(H₂SiO₃)として存在し、美肌成分のひとつとして注目を集める。

やがて地球は温暖な太陽の下、多種多様の動植物が繁殖し、炭素Cを中核とした様々な有機化合物を生み出した。顧みると私たちが住む地球中心部の核は鉄Feであり、海はほぼ水素Hと酸素Oからなり、さらに大気には窒素Nが主成分となり、酸素のサビ毒から地球の生物を守ってきた。改めて人体の構成元素と質量の順番をみると、酸素、炭素、水素、窒素の4元素であり、約96・6%を占めることだ。希少な鉄は酸素と仲良く、血液成分に、また細胞のエネルギー反応の仲立ちをする重要な任務を担う。

あった。宇宙で準備された生命の起源となる生命の種を発現させる環境である。実はその貴重な役割を演じたのが残り僅か数%の微量ミネラル、中でも亜鉛、鉄、銅、マンガンは大事な役割を果たす。原始の海には単細胞生物が誕生し、長い年月を経て、各種の生物が陸続と誕生することになる。ここで驚くことに海水と羊水の血清組成は類似し、しかも水素を含むDNAの基本的な構造は、30数億

年前の単細胞生物時代に構築されたことだ。
(続く)

